

議決事項

件名	提案理由	審議の状況	採決の次第
報告第23号 平成27年度12月補正予算案 についての市長への意見申出に ついて	12月補正予算案の作成 について、教育長の 臨時代理により差し支 えのない旨回答したこ と、及びその内容につ いて報告するものでは ずる。	特記事項なし	
報告第24号 垂水市教育支援委員会の答 申内容の決定について	垂水市教育支援委員 会の答申を受けて、教 育長の臨時代理により 障害児の望ましい措置 を決定したこと、及び その内容について報告 するものである。	特記事項なし	
議案第38号 平成28年度垂水市一般会計当 初予算要求について	平成28年度当初予算 案の作成について、教 育委員会の意見を申し 出ようとするものでは ずる。	特記事項なし	承認

平成27年度第9回教育委員会定例会出席者

日時及び場所	出席者	
<p>平成27年12月10日（木）</p> <p>午後2時00分</p> <p>↓</p> <p>午後4時24分</p> <p>第2研修室</p>	<p>教育委員長 野村 繼 治</p> <p>教育委員 田原 正 人</p> <p>教育委員 中谷 いつみ</p> <p>教育委員 葛迫 幸平</p> <p>教 育 長 長濱 重光</p>	<p>教育総務課長 保久上 光昭</p> <p>学校教育課長 下江 嘉 誉</p> <p>社会教育課長 森山 博之</p>

会 議 要 旨

1 開 会

定刻、定足数に達しており、平成27年度第9回教育委員会定例会を開会した。
報告第24号と議案第38号は非公開で審議する旨、委員長から発議があり、全会一致で議決された。

2 平成27年度第8回定例会会議録の承認 承認

3 議 事

報告第23号 平成27年度12月補正予算案についての市長への意見申出について
報告第24号 垂水市教育支援委員会の答申内容の決定について
議案第38号 平成28年度垂水市一般会計当初予算要求について

4 その他

学力向上のための取組み「学力向上モデル」について

5 委員報告

6 閉 会

議事内容等

3 議事	報告第 23 号
教育総務課長	平成 27 年度 12 月補正予算案についての市長への意見申出について 補正予算案の作成について、教育長の臨時代理により差し支えない旨回答したこと、及びその内容について報告した。 (質疑なし)
	報告第 24 号 垂水市教育支援委員会の答申内容の決定について (非公開)
	議案第 38 号 平成 28 年度垂水市一般会計当初予算要求について (非公開)
5 その他	
学校教育課長	学力向上のための取組み「学力向上モデル」について 学力向上に向けての取組みについて、研修資料を使いその内容を説明。
田原委員	それぞれの学校に指導力が素晴らしい先生もいるが、学校力としてそれをどう結集させるかが学力向上につながってくる。素晴らしい資料なので校内研修でも使用し、一人ひとりの先生に浸透させていただきたい。自分たちも、授業を見る視点としてこれを勉強しておけばいいのではと思う。
学校教育課長	校長に、4月、5月の研修で使うように指導している。今後は、指導主事もこれを基にしながら指導していきたい。
葛迫委員	指導していい先生を育てるということだが、まずは子どもを勉強好きにさせることではないのか。親学ということになるのではないのか。
学校教育課長	子どもたちに分かったと思わせる授業が勉強の楽しさにつながり、学力が向上すると考えている。そういう授業にするためには、教師の力が大事である。
教育長	指導力のある先生というのは、子どもたちにいかに分かりやすく教えられるか、又、子どもたちが勉強する気にさせられるような学級経営、学級づくりができる先生である。
田原委員	子どもたちへの接し方や目の掛け方など、先生の総合的人間力が大事で、それがベースにないと、いくら技術的なものを学んでも先生の指導力は伸びないのではないかと思っている。

中谷委員	先日、テレビの全国歌合戦で優勝した志布志市の小学校男性教員のクラスの児童が、その先生を「今までにない、大好きな先生」と紹介し、その先生も「子どもたちにやって見せるんだ。」と言い、心にしみる歌を歌われた。先生の人間力で、子どもたちの学習面も伸び生活面も良くなると思う。
教育長	子どもたちから憧れられる、尊敬される先生であって欲しい。学力向上には本人の努力や家庭環境も大事だが、先生方が毎時間しっかり教えることが大切である。
委員長	難しいことと思うが、この取組みがさらにうまくいくようお願いする。
3 報 告	委員報告
委員長	教育委員の報告に入る。
委員長	<p>1 「垂水中央中学校文化祭について」</p> <p>11月15日の垂水中央中学校文化祭に参加した。今年の文化祭は、合唱コンクールと合体させたもので、実行委員長の言葉にもあったとおりに、期待と不安の緊張感の中で一生懸命に取り組んだ様子が見て取れた。準備時間に制約がある中、懸命に努力したことも分かった。発表の態度を見ていても、生徒諸君の日常のしっかりとした生活習慣が感じられた。</p> <p>2 「垂水市地区公民館経営研究会について」</p> <p>11月29日の垂水市地区公民館経営研究会に参加した。「心ふれ合う豊かな地域づくりを目指して」を研究テーマに、境地区、協和地区、水之上地区の3地区公民館の経営研究と実践活動の発表があった。その発表のベースになっているものは、地域の方が気安く集まり皆で語り互いに助け合うといったふれあいの中から、地域が一体となるような大きな力、まとまりが生まれ、これが公民館活動の大事な役割なのだということがあった。ある意味で理想的なあり方かもしれないが、市内各地区の皆さんが公民館活動として、このような気持のつながり、助け合いの場を同じように求めているのだということが分かった。分科会でも例年以上に意見が出され、大変に盛り上がった研究会であった。</p> <p>3 「科学の祭典について」</p> <p>12月5日の科学の祭典に参加したが、今年も大盛況であった。参加者数は650人ということだった。本県において全国規模で実施される科学の祭典は、垂水市のほか、鹿児島市、日置市などである。子どもたちの集中した驚きの顔、きらきらとした目の輝きを見てみると、それだけですばらしい体験学習であると実感でき絶賛したい気持である。そして、部活動等の事情で参加できない子どもたちも多いと思うが、せめて1～2時間でも体験できれば、すばらしい実験や工作、科学現象などを楽しんでもらえるので、願わくば市内全児童生徒が参加できればと思う。</p>

田原委員

1 「垂水高校創立90周年記念式典について」

11月14日の垂水高校創立90周年記念式典に参加した。前身の女学校からスタートし90周年ということで、歴史の重みを感じる。生徒はたくさんの参加者に取り囲まれ少し緊張気味であったが、しっかりとした態度で臨んでいた。格闘家の菊野氏の記念講演も、自分の体験に基づいた「常に人生をポジティブに考え行動して生きていく」という演題で、今の高校生にすんなりと受け入れられたのではと感じる、いい講演会であった。

2 「学校経営報告会について」

11月26日の学校経営報告会は、資料が非常にすっきりと分かりやすく、校長先生方の説明も一番力を入れて取り組んでいることや課題等について、丁寧に説明していただき分かり易かった。その取組みの中で、重点策を決めて焦点化して全教職員で取り組もうとしている学校と、学校全体での取組みという点で若干弱いのではと感じる学校があった。要は、個々の教職員の力をいかにまとめ上げて、学校全体の力、学校力にするかだと思う。

3 「垂水市地区公民館経営研究会について」

11月29日の垂水市地区公民館経営研究会で、今年は当事者として発表を聞いた。水之上地区の取組みは、平成23年度に市の指導をいただいて住民アンケートを基に作った三和づくり計画に基づく活動を実行している。分科会の意見にも出て講師の話にも出た「地域全体で奉仕活動をしている、学校と連携している、ふれ合いの場を作る活動」といった点で、概ね今の活動で良好なのかなと思った。地域には地域の特性があると思って、これからやっっていこうと考えている。

4 「科学の祭典について」

12月5日の科学の祭典では、垂水の子もたちのために毎年ブースを出していただいている関係者の皆さんに、大変ありがたいことだと思った。今年は、特に体験を交えた実験のようなものやものを作ったりして活動するというところに、いっぱい子どもたちが集まっていた。体験しながら学ぶことが必要だということが分かった。体育館の方でもやっていたということであったが、子どもたちは会場が分散すると行きたがらないので、同じ会場でできた方が良い。

中谷委員

1 「1年間を振り返っての報告について」

学校応援団、民生委員の主任児童委員としての活動の中で、障害のある母親やたくさんの子を持つ母親、米もなく電気やガスも止められ生活に困っている母親との関わり方、中学校正門でのあいさつ運動やスクールバスに乗車しての生徒との関わり方、公民館を中心としたグラウンドゴルフ大会など高齢者との関わり方、寺子屋を通しての児童との関わり方、地域の幼子から大人との関わり方、柘原という場所に住みながらの人との関わり方、市民館や文化会館での会議とか催しものとの関わり方、生涯学習との関わり方、運動会や体育祭などでたくさんの地域に寄せてもらっての関わり方など、人との出会いや関わりの中で生きる力を育ん

中谷委員

でいただいたと感謝している。月を追うごとに手帳の中身が鉛筆で真っ黒になっていく中で、この1年を無事に終われそうでほっとしている。来年も、精一杯務めさせていただきたいと思っている。いろいろな人とのつながりや安心感の中でそれぞれを成長させ生きる力を育むことが、我々委員の願い、活動だと思っている。

葛迫委員

1 「垂水中央中学校文化祭について」

11月15日に「努力のピースを組み合わせ大きな感動を作り上げよう」をテーマに、垂水中央中学校文化祭が合唱コンクールとともに開催された。個人個人がピースという感じで非常に楽しく、子どもたちから大きな感動をもらった。また、モザイクアートの1年生全員で作ったというピカソのゲルニカは、一人ひとりが一つのピースを受け持って鉛筆で描いたとのこと。組み合わせてできた作品に子どもたちも感動したことと思うが、それを見た我々も非常に感動した。ゲルニカという作品がどういう意味を持ってできあがったのかというようなことを、感じ取ってくれていたら良かったと思うことだった。

2 「垂水市地区公民館経営研究会について」

11月29日の垂水市地区公民館経営研究会に参加した。「心ふれ合う豊かな地域づくりを目指して」という研究テーマがあり、境地区、協和地区、水之上地区の各地区の経営研究発表があった。その中で県の社会教育主事兼専門員の鬼塚先生から、「公民館は、地域の生涯学習の学校、家庭教育の支援、奉仕活動の推進、学校と地域が連携し、人々がつながるといった目的を持って活動するところであり、そこでの活動の中で地域の課題を見つけ出していこう。」との指導、助言があった。先生の「課題はお茶飲みで見つけろ。」という言葉に、水があるところに人が集まるという「市井」という言葉があり、人が集まり井戸端会議をすることで課題が見つかるということにつながってくるのではないかと思った。その課題が、子どもや高齢者、地域、町のことであったりするわけで、その「市井」の役割を公民館が担っているのかなと感じる。皆が集い活動する、そして皆が地域社会のこと、地域の宝でありエネルギーとなる子どもたちのことや高齢者のことを考える。そういう公民館活動というものに期待し、希望の膨らむ研究会となった。

教育長

1 「子ども会大会及び綱引き大会について」

12月6日（日）に、子ども会大会と綱引き大会が行われた。全国的に少子化が進みいろんな活動の継続が危惧される中で、本市は育成会連絡協議会の方々が中心になり、今年も綱引き大会は36チーム、320名程の参加があった。子どもたちは学校の学びや体験活動でも成長するが、保護者と地域の方々が継続してつないでくださっているこのような行事を通して成長するのだと改めて認識し、非常に大事なことだと感じた。

教育総務課長
学校教育課長
社会教育課長

11月11日から12月10日までの主な行事等について報告。
併せて、1月12日までの予定についてお知らせした。

6 閉 会